

津山工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	学外実習 A	
科目基礎情報							
科目番号		0174		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		実習		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		総合理工学科(機械システム系)		対象学年		5	
開設期		通年		週時間数		1	
教科書/教材							
担当教員		野村 健作					
到達目標							
学習目的：企業での実習を通して学校の授業では得られない実践的な技術に触れるとともに、組織的取り組みの中で、指導者との意見交換や報告書の作成を通じてコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高める。							
到達目標： ◎ 1. 組織の中で周囲と協調して仕事を進めることができる。 ◎ 2. 得られた成果についてわかりやすく口頭発表し、質疑に対して適切に応答できる。 ◎ 3. これまでに学んだ知識と企業活動等との関わりについて理解し、自らのキャリアデザインに活かすことができる。 ◎ 4. 技術者の社会に対する責任について理解できる。							
ループリック							
	優	良	可	不可			
評価項目1	組織の中で周囲と協調して主体的に仕事を進めることができる。	組織の中で周囲と協調して仕事を進めることができる。	仕事を進めるにあたり、組織のルールを守ることができる。	左記に達していない。			
評価項目2	得られた成果について、パワーポイント等を用いて効果的にまとめ、自らの言葉でわかりやすく説明できる。また、質疑の意図を理解した的確な応答ができる。	得られた成果について、パワーポイント等を用いて整理し、わかりやすく説明できる。また、質疑に対して適切に応答できる。	得られた成果について、パワーポイント等を用いて整理し、説明できる。また、質疑に対して応答できる。	左記に達していない。			
評価項目3	これまでに学んだ知識と企業活動等との関わりについて十分に理解し、自らのキャリアデザインと継続的な自己研鑽に活かすことができる。	これまでに学んだ知識と企業活動等との関わりについて理解し、自らのキャリアデザインに活かすことができる。	これまでに学んだ知識と企業活動等との関わりについて漠然と理解し、自らのキャリアを想像できる。	左記に達していない。			
評価項目4	技術者の社会に対する責任について十分に理解し、関連する法令やモラルも含めて具体的に説明できる。	技術者の社会に対する責任について理解し、具体例を挙げて説明できる。	技術者が社会に対して責任を負っていることを理解している。	左記に達していない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：融合科目・その他 基礎となる学問分野：工学／機械工学 学習教育目標との関連：本科目は総合理工学科学習教育目標「④分野横断的な融合力の育成，⑤グローバルな視点と社会性の養成，⑥課題探求・解決能力の育成，⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション能力の育成」に相当する科目である。 授業の概要：実際の実務の現場で実習を行うことによって、社会のニーズを肌で感じ、技術者としての素地を高めるとともに、報告書の作成・プロジェクター等を用いての成果発表を通してプレゼンテーション能力を高める。						
授業の進め方・方法	授業の方法：夏季休業期間など学業に差し障りのない期間を利用して学外の企業等で実習を行う。実習終了後、実習報告書を提出し、別途定める日程で開催される報告会で実習内容を発表する。事前の指示事項・報告書の作成・プレゼンテーションについては各自配属された指導教員の指導下で行う。 成績評価方法：1日の履修時間の上限を8時間とし30時間以上の履修が必要である。これを前提として以下の評価を行う。実習証明書記載の派遣先による評価（30％），実習報告書（30％），プレゼンテーション内容（40％）で評価する。履修時間が不足するとき27時間以上履修している場合には学内措置を実施することがある。詳細はガイドンスで説明する。						
注意点	履修上の注意：実習期間中は障害保険および賠償責任保険に必ず加入すること。実習証明書と学外実習報告書の提出ならびに報告会での実習内容の発表が必須である。選択科目（自発的学習科目を除く）のうち認定できる単位数は、専門科目については学外実習AまたはBを含めて6単位以内である。実習は原則として学業に差障りのない期間とする。 履修のアドバイス： ・事前に行う準備学習として、事前開催される学外実習説明会に必ず参加すること。実習開始までに指導教員からの指導を受けること。 ・実習終了後に実習報告書の提出と報告会があることを当初から念頭において実習に取り組むこと。報告書作成と報告会の準備は指導教員からの指導を受けること。 基礎科目：これまでの全専門科目 関連科目：長期インターンシップ（専1） 受講上のアドバイス：実習中は、学生らしい服装をし、初日と最終日は整った服装（スーツなど）で出社すること。また、社内規律、作業内規等の規律に従うこと。実習期間中はこまめにメモを取ること。その日の実習内容をまとめておかないと、報告書の作成ができないので注意すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
選択							
授業計画							

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス（履修に関する詳細説明が全系共通の日程で実施されるので必ず参加すること。）（2時間）	インターンシップの目的について理解する。
		2週	事前指導，インターンシップ先の紹介	インターンシップ先を決定する
		3週	インターンシップ（30時間）	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
		4週	インターンシップ（30時間）	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
		5週	インターンシップ（30時間）	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
		6週	インターンシップ（30時間）	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
		7週	インターンシップ（30時間）	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
		8週	インターンシップ（30時間）	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
	2ndQ	9週	インターンシップ（30時間）	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
		10週	インターンシップ（30時間）	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
		11週	インターンシップ（30時間）	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
		12週	インターンシップ（30時間）	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
		13週	インターンシップ（30時間）	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
		14週	インターンシップ（30時間） 実習証明書に必要事項を記入してもらうよう依頼する。	企業等における技術者の実務を理解できる。 企業における社会的責任を理解できる。 実際の企業人等との仕事を通じて自身のキャリアデザインを明確化することができる。
		15週	報告書作成（8時間）	実施内容や得られた成果について報告書にまとめる。
		16週	・学外実習報告会（2時間）	体験した内容を口頭発表し，質疑に対して適切に応答する。
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
			自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	3	
			目標の実現に向けて計画ができる。	3	

			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているかを説明できる。	3	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合				
	派遣先企業評価	発表	報告書	合計
総合評価割合	30	40	30	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	30	40	30	100